

# はじめに

橋本賢二

近年、文学部の多くが姿を消し、代わりに文化研究や映像研究の学部や学科として名称を改め、生まれ変わり、再スタートを切っているようである。それはひとえに時代の要望にこたえるための変化ではあるが、それならばと、我々も今年は思い切って「映像研究」のみに的を絞り、100パーセント「映画」だけを、真正面から取り上げてみることにした。

研究といっても専門の学生が少数だったために、タイトルも『アメリカ映画研究を始めるまえに』とし、本格的な映画論集ではなく、映画研究に至るまでの「助走」や「準備」段階で必要な事柄に目を向けることとした。さらに、小説研究との違いなどの認識を中心として、「失敗しないための注意事項」と「資料となるデータ」などを示してみた。

幸い、100名を超す学生が一般英語のクラスを受講してくれていたのも、彼らの協力を仰ぎ、「お薦め映画」を集めてみることにした。できれば映画論にしたかったが、なにぶん個人研究費から捻出している予算ではページ数にも限界があったので、1人1～2枚の制限となってしまった。なかには少し長く書いてくれた学生もいたが、この学生たちにはもっと紙数を与えて自由に書かせてあげたかったということが本心であり、悔いの残る点である。

100名を超す学生を対象として論集を作成することはやはり大変なことではあったが、この作業の流れ自体がまた「映画研究を大クラスで行うというときにどのような手順を踏んでゆくべきか」ということのサンプルにもなり得ると思われるので、まず、その過程を示すことからこの本は始まっている。指導者側にとって参考になることがひとつでもあればと願っている。

そのあと、「映画研究の問題点や従来の研究との相違点」、「小説が原作となっている近年のアメリカ映画」などを挙げていき、映画論の実践へと移行する。

第二部には、あまり難しく考えずに、みんなが気に入っている映画を自由に挙げてもらった「マイ・ベスト・ムービー100選」が続いていく。中には日本映画も多くあったが、今の時代、世界は逆にアメリカ映画より日本の作品の方に関心を寄せていることを考えれば、これも付け加えた方がよいと考え、あえて省略はしなかった。ちなみに一昨年出版した『ジャパニーズ・ポップ・カルチャー2006』は海外で好評をいただき、ドイツでは国立図書館等から

依頼があり、寄贈した。

今回、協力してくれた欧米言語文化講座以外の学生は、次のとおりである。教養学科の人間科学、自然研究、スポーツ・健康科学専攻の学生。教員養成課程の小学校：教育科学／総合認識／人文・社会／芸術・体育、さらに中学校：国語／保健体育／技術・家庭／音楽／美術・書道、そして特別支援／幼稚園教諭養成課程の学生たちである。

この学生たちにとっても、よい思い出となってくれればと思う。そしてこの論集も本学大学図書館のリポジトリに登録し、インターネットで公開する予定である。その際に問題となるのはやはり映画の写真などの著作権の問題であるが、これは前年の論集でも示したように、著作権法32条（公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行われるものでなければならない）をふまえ、学生に熟知させ対応した。さらに紙数の関係もあり、編集時に写真のほとんどをカットさせてもらった。

いろいろ反省すべき点は多く残されることとなったが、ともあれ、このささやかな論集からこれからの時代に向けたひとつの研究と教育のヒントが生まれ、てくれるならば、協力してくれた学生たちにとっても大きな喜びとなることだろう。

# 目次

- ◆はじめに ..... 橋本賢二

## 第一部

### 映画研究のために

- 準備としてやったこと ..... 橋本賢二 1
- 映画研究の手法と注意点
- スティーブン・ミルザー原作『幻影師アイゼンハイム』を例に— ..... 橋本賢二 7
- 最新アメリカ文学 映画化状況 ..... 中井寛貴 14

## 実践篇

- ☆『ロミオとジュリエット』
- ～400年語り継がれる恋愛物語から学ぶこと～ ..... 来嶋夕依 25
- ☆『ショーシャンクの空に』
- 有限の生に向き合うために— ..... 高良児 29
- ☆『マトリックス』
- ～機械と人間をイメージしてみる～ ..... 村上雄太 32
- ☆『プラス!』—音楽のカー ..... 三井愛 35
- ☆『ハンコック』が教えてくれたこと ..... 山口舞 37
- ☆『プラダを着た悪魔』から考える働く女性像 ..... 杉山友視 39
- ☆『リトル・マーメイド』の魅力 ..... 阿江真由美 41
- ☆『ラスト・サムライ』から学ぶ人間に必要なもの ..... 山下直子 43
- ☆『幸せのちから』から学んだこと ..... 紀野由加里 45

## 第 二 部

### お薦め映画百選 — Our Favorite 100 Movies —

#### アメリカ映画等篇 . . . . . 47

魔法にかけられて / ピーターパン / 最高の人生の見つけ方 / 幸せの1ページ  
きみに読む物語 / 50回目のファーストキス / CUBE / RENT  
天使にラブソングを2 / デイ・アフター・トゥモロー / アース / ヘアスプレー  
ターミナル / レミーのおいしいレストラン / ロード・オブ・ザ・リング  
グリーンマイル / プライベート・ライアン / 硫黄島からの手紙 / イルマーレ  
バンテージ・ポイント / ドリーム・ガール / ビッグ・フィッシュ  
チャーリーとチョコレート工場 / サウンド・オブ・ミュージック  
フォレスト・ガンプ / ファインディング・ニモ / Mr.インクレディブル  
モンスターズ・インク / ライオン・キング / ハリー・ポッター . . . . 他

#### 日本映画篇 . . . . . 131

紅の豚 / とんりのトトロ / 風の谷のナウシカ / こぎつねヘレン / 海猿  
男たちの大和 / リアル鬼ごっこ / ただ君を愛してる / タイヨウのうた / 恋空  
パコと魔法の絵本 / バッテリー / そのときは彼によろしく . . . . 他

◆ あとがき . . . . . 橋本賢二

# 第一部

映画研究のために

## 準備としてやったこと

橋本 賢二

何をするにも準備は大切だが、相手とする学生の数が多い場合には、その必要性はさらに増してくる。今年度は一般英語のクラスの学生たちにも門戸を開いて、より多くの意見を集めることとした。そのために、短い時間で効率的に正確な指示を与えるには、要点をしっかりとわかりやすく示した文書の配布が最も効果的となる。

映画紹介や映画論は夏休み中に書いてもらうこととして、夏期休暇前の3～4週間の授業前の時間を利用して、次のような書類を順次配布した。

### Vol.1 夏休み課題について～映画紹介「私のおすすめ映画はコレ」

- ・ 『マイ・ベスト・ムービー100選』(仮題) 論集出版 (2009年2月)に掲載する映画論(エッセイ・記事程度)・映画の紹介文を書く。「私のおすすめ映画はこれだ!」、「授業で使えるビデオ教材はこれがいい」、「味わい深い作品です」、「～のシーンは涙ものです」、「～なところは感動しました」、「絶対みんなにも観てもらいたいと思います」、「私はこれを見てから考え方が少し変わりました」、「私も～してみようかなと思いました」、などと「心を動かされた」映画、感動作、名作、隠れた佳作・傑作などを紹介するプレゼンテーションを文章で行ってください。
- ・ 著作権や肖像権がある映画や俳優の写真は使えませんが、自分が描いたイラストや著作権フリーの素材(ネットで検索)は使ってもよい。ただし、レイアウトしてデータに完全入力しておくこと。A4サイズに入力して、レイアウトなど工夫して見やすくデザインしてください。分量は個人にまかせますが、A4、1ページ(から2ページぐらいで、場合により3ページ)。すぐれた作品には、追って、3ページまで拡大してもらう可能性もあります。形式の詳細については別紙で指示します。WORD で入力してデータをメール(または CD/フロッピーディスク:返却しない)で送ってもらう予定ですので、保存しておいてください。また、メールで添付する場合は、件名に「授業曜日、時限、シートナンバー、氏名」を入力すること:※必須事項です。
- ・ 提出は後期授業の初回(プリントアウト原稿のみ提出)。全員提出。  
(後期の成績のプラス分にします)
- ・ 論集に採用された人には、校正して、修正を求めることがありますので、更新してください。※不採用者に減点はありません。
- ・ データの送付についてはその後連絡します。

Vol.1 続き

▼記入要領

- ・ A4横書き、1(～2,3)枚、フォント・字体は自由。行・列、自由。(イメージとして別紙サンプル参照)
- ・ まずタイトルを書く：作品名を邦題で『 』内に入れ(「 」ではない)、それをどう人に勧めたいかを伝えるような題名をつける。
- ・ 氏名：右寄せ。
- ・ データ：作品と執筆者のデータを枠で囲んで、指示された番号のみを振りながら、書き入れる。

①氏名(アルファベット：見本参照) ②作品英題(ブロック体、大文字と小文字表記) ③日本公開年(西暦一年) ④上映時間(一分) ⑤ジャンル(自由に) ⑥主(出)演男/女優(英語又は日本語、1～2名) ⑦監督(英語又は日本語) ⑧原作者(あれば英語又は日本語)：作品名(英語又は日本語) ⑨作品を表すキーワード(3語程度：英語又は日本語) ⑩SHORT COMMENT(この作品を観て心に鮮やかに残った感動やイメージを、簡潔な英語で1文か2文にまとめる。例：私はこの映画を観て～な世界があることを知った。人に～していくことはいいことだと感じた。～なシーンは実に味わい深く、何度観ても飽きないと思う。)

あらすじ：枠で再び囲み あらすじ と題し(ネタバレなどに配慮も可)、ストーリーを(短く)書く。長さ自由(日本語)。

Vol.1 ではまず全体的な概説を示し、書いてもらいたいもののイメージを伝えた。さらに執筆上の注意事項記入要領をあわせて示した。

つづいて Vol.2 では、各論を具体的にどのように書けばよいのかという最も重要な点について、できるかぎり丁寧にわかりやすく述べた文書を配布した。

Vol.2 『マイ・ベスト・ムービー100選』(仮)映画紹介・内容について

- ・ A4サイズに Vol.1 の要領で必要事項を記入した上で、1枚(～2、3枚)にまとめる。

本論の書き方(例)

- ・ 各章にタイトルをつける。(文字は本文より大きく、又は太くする。センタリングする。)
- ・ 各章にⅠ.Ⅱ.Ⅲ.とつけてそのあと章題をつけていく。(同上。又は左寄せ。)
- ・ 何も章タイトルをつけなくて、段落のみをつけて、書き進める。(読みやすいこと。)

Vol.2 続き

▼記入例

- ・ I.『△△△』との出会い／私と『××××』／『・・・』の思い出 などと題し、作品と出会ったきっかけなどを書きながら、楽しく、読みやすく、スタートする。長くならないこと。
- ・ II.〇〇〇〇することの大切さ／△△△する勇気のお話／××××を忘れない／「・・・」忘れられないその一言など作品の本質、メインポイント、中核、魅力の本質に迫るタイトルをつけて、その作品がどうして素晴らしいと思うのか、自分の心を捉えたのか、自分にとって忘れられない作品と感じられたのかをシンプルに、分かりやすく、無理せずに素直に表現していく。
- ・ III.今見直してみてもう思うとか、その後のこととか、ここは自由に自分が伝えたいことを(タイトルを付して)外へ向かってアピールしていく。次の人々への紹介という思いで書くのもよい。

以上で終わってもよいが、I.II.III.をひとつにして書いてもよい。また、それ以外に作品の詳細に触れて、おもしろかったシーンや失敗しているところ、撮影の様子など、又、スターのエピソード、監督、主人公の立場など自由な論の展開としてもよい。

☆ただし、すべてその作品の魅力を他の人々に伝えたいという思いを忘れないように。その共感を一人でも多くの人に持ってほしいという心を基礎として書き進めること。

これがないとまったく初めて書く学生たちにとって、どこから手をつけてよいのかわからなくなってしまう。初歩的でどくらいかの解説から始めてもよいと思われる。

また、学生たちの様式を統一させるために詳細な指示を明記した。これにより、編集して一冊にまとめるときの不統一感は少なくなる。

のちほどみてみたところ、英語のできがすこぶる悪かったのは残念であったが、英語圏の専門の学生が少し添削してくれた。

いくら丁寧に説明してみても、具体的な見本を示す以上に効果的なものはない。架空の学生の架空のレポートを作成し、それをサンプルとして示し、わかりやすさを追求したのが次の Vol.3 である。



### Vol.3 映画紹介・映画論サンプル

- ・ 次の見本を参考として必要事項の記入方法などを確認し、間違いのないようにする。
- ・ 英文の作成などには「アルク・ホームページ」などを参考にすると文例が多く書きやすい。
- ・ 段落(アタマ一字下げ)をつけながら書き進める。

#### 『美女と野獣』にみる愛の形と成長

柏原 希望

① Nozomi KASHIWARA ② Beauty and the Beast ③ 1992年 ④ 84分 ⑤ animation, love story ⑧ ポーモン婦人・Janne-Marie Leprince de Baumont(1911-80) ⑨ 文部省特選(当時)、王となる資質、ディズニーの新時代 ⑩ Love is not longing for something from others but giving anything you have to them. Before you come of age, you had better learn to control your temper.

あらすじ：ディズニーが原作を元に作り上げた大人向けアニメの傑作。森の中に住む王子は訪ねてきた魔女を冷たくあしらひ、野獣の姿にさせられる。21歳の誕生日までに、人を愛し、愛されるようにならなければ、再び元の姿にはもどれない。道に迷って城に入り込んだ父親の身代わりで、城に来た娘、ベルに野獣は惹かれ始める。…

#### I. ストーリーの魅力から

私がこの作品を初めて観たのはニューヨークへ行く飛行機の中だった。小さい頃から漫画などまったく読んだことのない私は、ディズニー映画どころかアニメさえ観たことがなかったので、半ば眠っていたのだが、話が華境に入ってくると、ジワリ、ジワリと身を乗り出していた。…

#### II. あきさせない展開とミュージカル仕立ての味わい

ディズニー映画は切れ目さえ退屈させないように工夫されている。子供があきるものは大人も退屈しやすい。その点、美しく展開が速くテンポのよい音楽付きの映像は、見るものを惹きつける要素を多分に含んでいる。さらに…

#### III. 心に残るシーン —ダンス、そして解放—

ベルに会い、人を愛する気持ちを知った野獣が、今度はベルに何か与えたいと思い始める。ベルの好きな本であふれる書齋を与え、さらに、城から出してやることこそ愛だと知る。もう再び人間にはもどれないかもしれない。しかし、その思いこそ成長の瞬間の証となる。…

さらに、それに加え、前年度までに編集出版していた論集の中で、映画を扱っていた論文を直接見本として、模範的に配布した(氏名消去)。それにより、ほぼ求められているものの姿はすべての学生に、ほぼ正確に伝わったようである。

さらに提出に関して、秋の新学期には、次のような表紙をつけたゼロックスコピーを提出させた。

表紙 右上とじる または 中央クリップどめ 各ページ下に番号鉛筆書き	
( )曜日 ( )時限	シート No( )
専攻 ( )	
学籍番号( )	
ふりがな ( )	:
氏名 [ ]	:
論題	
「	」
枚数 : 1 2 3 ( ) 枚	「○」

そしてさらに、データ添付には次の注意書きを配布し、万全を期した。

<p style="text-align: center;">映画論データ送付について</p> <p>・プリントアウトした紙の論文を提出した者は、必ず10月中に下にあるメールアドレスに添付資料として送ること。(期限厳守)</p>
--

映画論データ送付についての続き

※ 注意事項

1.メールのタイトルには

金3 「タイタニック」 山口太郎 2ページ

というふうに授業の曜日、時限、「映画のタイトル(略可)」、氏名、全ページ数を記入しておくこと。

2.メールの本文にはもう一度、曜日、時限、さらに、シート番号、映画論

完全タイトル、専攻、学籍番号、氏名(ふりがな付き)、全ページ数、プリント提出日を記入しておくこと。

3.10月中に必ず送ること。

映画提出先メールアドレス

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

以上のような手法でなんとか協力を仰ぎ、このような論集の完成に至った。

この提出を後期の成績のプラスとすることを伝えておいたことにより、ほぼ全員の学生が提出してくれた。残念なことは、予算の関係で、ページ数が多くなりすぎないように言ったために、実力があっても1ページでがまんしてくれた学生が多くなり、第一部の論文が少なくなってしまったことである。今後の反省としたい。

## 映画研究の手法と注意点

——スティーブン・ミルハウザー原作『幻影師アイゼンハイム』を例に——

橋本賢二

小説に対する関心が薄れるなかで、文学や文化の研究を標榜している大学の機関では、映画を研究する流れがますます盛んになりつつある。小説に比べ取りつきやすく、学生たちの関心も高く、本を読むことが少なくなった現代には卒論のテーマ探しにおいてもとりあえず有効な材料となっている。その時に問題となってくるのが、研究途上における「論考の瓦解<sup>がかい</sup>」である。

特に強く関心を持っている小説もなく、最近話題となった映画からなんとなく興味を持ち原作を読み始めた学生たちが、両者の間にずいぶんとかげはなれた世界が存在することに違和感を覚えながらも、とりあえずひとつのテーマを設けて書き始めるうちに、「自分が書いているのは小説論なのか映画論なのかわからない」とか「原作と映画はまったく違うテーマになっていることに気づき始めた」とか、「今自分は何を調べているのかわからなくなった」とか、果ては「映画ですでに明らかにされているのに、なぜこのテーマを掘り下げて考えてみる必要があるのかわからなくなった」というような根源的悩みまで口にすることが間々ある。なかには卒論提出期限が迫る年末になって、書くことを放棄してしまう例も少なからず見受けられるのではないだろうか。また人々がより一層リアリティのある作品を好む傾向を示し始めていることに呼応して、映画は「実話に基づく」とか「本当にあった事件」とか「実在の人物の努力と感動のストーリー」などと銘打って映画の宣伝をしていることが多くなってきている。その言葉に惹かれて映画を観て、原作を読み始めた学生たちは、そこに描かれている人物や作品の背景となっている社会問題などに対し興味を抱き始め、それらに関する現実のデータや資料などを集め始めることとなる。その流れの中で、ある者たちがまた次のような疑念を持ち始めるのも自然の流れであろう。「あれ、私は今何を研究していたのだろう。映画だったのか小説なのか、それとも本当の出来事や、実在の人物だったのだろうか。」小説研究が映画研究に広がるうちはまだとらえどころがあったが、関心はその作品の中においてとりわけ輝いている「時代」や「社会」「文化」「集団」「現象」「事件」に移るにつれ、手法は文化研究・(英米) 事情的研究へと変質していき、「自分の考えを強く示していく」「芸術批評」から「事実の提示」のみによっても研究が成り立つ「文化研究的、文明事情的リサーチ」へと移行していることがよくある。研究している本人たちもそのことに気づいておらず、それに対するアドバイスもない場合には、学生たちは方向性を失い、まったくスタックした状態に陥ってしまう

危険性をはらんでいるのである。

そこでここではひとつの作品を例に挙げながら、もう少し詳しく、その研究対象の特性と問題点について説明してみよう。ここに挙げる【映画】『幻影師アイゼンハイム』(The Illusionist) は、今日のアメリカの幻想小説作家スティーヴン・ミルハウザー (Steven Millhauser, 1943・) の【短篇】「幻影師、アイゼンハイム」(“Eisenheim the Illusionist”) を読んで感銘を受けた映画監督のニール・バーガー (Neil Burger) が、自ら脚色し、【シナリオ】として書き上げたものを映像化した作品である。その【時代背景】となっているのは、現代のアメリカではなく、19世紀末のオーストリア、ウィーンである。ミルハウザーによる原作は、ハプスブルグ家が治める帝国が衰退し崩壊しようとしている世紀末の退廃的時代風潮の中で生まれてきた、幽霊を操るイリュージョニストの<sup>わざ</sup>業と人生模様を、妖しくも悲しげな光と影で描き上げた短篇作品である。この原作を読んでインスピレーションを得たニール・バーガーは、作品を基礎としながらも、ストーリーを完全に違うラブストーリーへと変貌させ、登場人物たちの役柄設定を変更し、新たな人物たちを登場させ、殺人事件を引き起こし、犯人捜しのサスペンス・テイストを付け加え、映画にのみ許されるそして求められる改編を行った。現実のヨーロッパ世界としては、当時、娯楽として大がかりな手品が人々に愛されていたが、世紀末に至りそのトリックの種<sup>たね</sup>はますます複雑化し、やがてステージの上に幽霊を出現させるというようなマジシャンも登場していたらしい。この「時代風潮と幻影師」というものを追い求め分析してみることも、それ自体が文化と人類の営みを知るうえでも興味深いものであり、有益なものであろう。しかしながら映画の設定の中にある皇太子と婚約者は実在の人物ではなく、実際にあった「マイヤー事件」などをヒントとしてニール・バーガーが創作したフィクションである。つまり映画の背景社会には事実が多く用いられているとしても、きらびやかに注目を浴びる登場人物たちはすべて架空の人物たち、あるいは映画用に修正されたキャラクターなのである。文化研究に進むときに意識に留め置きながら、区別しなければならない一線はまさにその部分である。

さらに【原作】はまさに「ゆるく基づいている (loosely based)」だけなので、それをヒントとして作られたこの映画はほとんど別の芸術作品と考えるべきものである。その中心的テーマのひとつである幽霊を出現させるというアイゼンハイムが考案した魔術についても、【原作】の中では映画とは異なる位置づけが与えられている。秩序の崩壊しかけたハプスブルグ家最後の時代にあつて、現在の社会を守り通そうとする体制側の警察から見ると、アイゼンハイムのイリュージョンは「幻想世界と現実世界の境界線をあいまいにして侵犯する禁断の黒魔術」ということになる。そして短篇小説

の中ではそれがひとつの中核として機能しているのである。その現実嫌気がさしたか、はたまた世紀のイリュージョニストとしての使命に疲れたか、迫り来る危機を感じたアイゼンハイムは自らの姿を消し去る一世一代の壮大なイリュージョンに挑む。舞台の上で幽霊を出現させたアイゼンハイムを「公共秩序の妨害」罪でウール署長が逮捕しようとした瞬間、その手はアイゼンハイムの肩を通り抜ける。剣を抜き切りつける署長と6名の警官を物憂げな眼で眺めながら、イリュージョニストは存在の糸を解きながら虚空の領域に溶けていく。

変革の波に基盤を洗われた19世紀末の旧秩序は、大観衆の見守るなか、体制側の指の隙間からまさに砂のようにこぼれ落ちていった。ここにはラブストーリーとイリュージョンの関連性はほとんどないが、【映画】では逆にその出来事が、アイゼンハイムと幻なじみの高貴な女性との禁断の愛を成就させる奇跡の魔法という位置づけに変質している。

【映画】『幻影師アイゼンハイム』はアメリカとチェコのコラボにより製作されたアメリカ映画で、全米では2006年8月に当初51館のみで公開されたが、味わい深い作品ということで、じわじわと評判が高まり、上映館はやがて1500館ほどにまで拡大された。最終的には興行収入も4000万ドルに達し、今も根強い人気を示している。日本公開は2008年5月で、すがすがしい感動を呼び、「久しぶりに映画らしい映画を観た」というような日本人の感想もよせられているエンターテインメント性のある文芸作品である。

19世紀末ウィーンを舞台に、天才マジシャン（イリュージョニスト：幻影師）と、幼い日に出会った公爵令嬢との間の決して許されることのない「格差愛」を描く、ロマンス・ミステリー風のラブストーリーであるこの映画は、インディペンデント・スピリット賞最優秀脚本賞、サンディエゴ映画批評家協会特別賞、ニューポートビーチ映画祭女優賞、など数多くの賞を受賞し、第79回アカデミー賞撮影賞にもノミネートされるまでに至った佳作である。

家具職人の家に生まれたエドゥアルド（後のアイゼンハイム）はある日、道を歩いているとき、偶然通りかかった大木のそばで、そこに座っていた男から不思議な奇術を見せられる。男は彼にいくつかのマジックを見せると、大木ごと消えてしまう。その日から奇術の虜になってしまったエドゥアルドはマジックをしながら路上を歩いているとき、馬で通りかかった公爵令嬢・ソフィと仲良くなり、彼女に手品を披露してゆくうち恋心が芽生える。しかし、身分の違いから二人は強引に引き裂かれる。そして少年は愛する女性のことを忘れようと、アジア、中国へと旅に出て、以後消息が途絶える。

15年後、アイゼンハイムと名を変えたエドゥアルドは、町中の人々の話題をさらう若き天才幻影術師として再びウィーンに姿を現す。その噂を聞きつけた皇太子レオポルトは、何も知らない婚約者ソフィを連れて劇場を訪れる。実験台を探す幻影師の求めに応じて舞台上に上がるように皇太子に促されたソフィは、今はひげをたくわえて変わってしまっていたエドゥアルドの瞳を間近に見た瞬間、そのイリュージョニストの正体を知る。

やがてアイゼンハイムとソフィの間には、十数年前に無理やり引き裂かれた愛が再燃する。少年時代に出会ったときには、窮屈な押し付けられる政略の世界の暮らしから脱したいと願うソフィの「私を消して」という言葉に、魔法を持って果たしきれなかった後悔があったアイゼンハイムは、今度は「本当についてくるか」と尋ね、ついに修行の旅の成果を試す禁断の魔術(イリュージョン)に挑む。ディズニー映画の『アラジン』においてプリンセス・ジャスミンに“Do you trust me?”と尋ねながら主人公のアラジンが魔法のじゅうたんに乗せて、窮屈な城から外の世界へと連れ出すシーンを彷彿とさせる、まさにラブストーリーの大団円の始まりである。

映画の観客に示されていくのは、嫉妬に駆られた皇太子がソフィを殺害し、事件そのものは犯人不詳のまま迷宮入りし、その直後からアイゼンハイムの舞台は一変、ステージには幽霊が現れて、客席の人々と会話をし始め、やがて舞台にはとうとうソフィの幽霊が現れるようになるというもの。

やがて風紀を乱す幻影師を逮捕せよという皇太子の指示が出るようになっていき、そしてついに警官がアイゼンハイムの体をつかもうとした瞬間・・・。

皇太子に擦り寄り、二人の恋路を邪魔して出世を狙っていたウール警部はやがてレオポルトから離反していき、やがてソフィの死亡事件を追いかけていくうちにその事件の真相を悟っていく。その真相究明の過程が最終的に、エンディングにおけるアイゼンハイムの一世一代の愛に賭けたイリュージョンの謎解きの解説となり、そのシーンの中で披露される幻影ではない「ふたりの愛の真実」が観終わったあとのさわやかな感動を生み出す。

【時代背景】として、実際に19世紀末ウィーン、ハプスブルク帝国末期の芸術文化の都では、大掛かりな奇術(イリュージョン)が一世を風靡していたそうである。ラジオやテレビどころか映画さえない時代に、大掛かりな舞台装置を用いたマジックは絶大な人気を集めていたらしい。アイゼンハイムという名の幻影師は実在の人物ではないが、ヒントとなるような幻影師は数多くいたらしい。この映画に登場するマジックの多くも当時にあったものをイメージして採用してあるという。

監督ニール・バーガーはこういった時代の文献を読み漁り、時代考証を徹底して行った。そして実際にあった出来事などを参考にし、名前にも関係者をイメージさせる

ものを用いたり、当時の面影を残すロケ地を探し回ったりして、作品にリアリティのある臨場感を生み出すことに意を尽くしている。その結果、舞台は当時を彷彿とさせる風物にあふれ、画面は時代背景が生き生きと感じられるものとなり、作品は変わろうとする世紀末ヨーロッパの「時代の息吹」を色濃く反映するものに仕上がっているのである。これはマジックという怪しげな題材ゆえの腐心でもあるが、それが作品の重みとなり映画の質を高めている。そのおかげで、映画は全米コスチュームデザイナー協会賞にノミネートされるなど、細やかなディテールも賞賛されることとなり、「しっとりとした雰囲気のある作品」との評判を勝ち得ている。

【原作】の中にもこのような時代の風物や風潮は同様に色濃く現れている。時代背景的には共通性があるが、中身としてはどうであろうか。この映画の【原作】であるスティーブン・ミルハウザーの短篇集『バーナム博物館』(*The Barnam Museum*, 1990: 柴田元幸訳/白水Uブックス)に収められた短篇「幻影師、アイゼンハイム」を読むと、主人公は映画のアイゼンハイムとはイメージが大きく異なることに気づくはずである。

主人公のアイゼンハイムは、マジックにおいては他を圧倒する力と自信を示すが、それが人間、とくに自分が関心を寄せる相手となると、とたんに消極的になっていく。ミルハウザーの作品にはそのような傾向が強いように思われる。映画の中ではメインテーマとなっている「愛」や「女性」、「結婚」に関して、短篇のなかではどのように描かれているか、アイゼンハイムの心の動きを少し引用してみよう。

「人々を欺きつづけることに疲れたのか、それとも自分は一人なのだ、まったくの独りぼっちなのだという想いに襲われたのか、色あせてゆく世紀の最後の数週間、二度と舞台に立つことはなかった」アイゼンハイムは、自分の人生について考え始める。

彼は40歳か、もしくは41歳になっていた。人間が自分の人生をじっくり見つめ直す時期である。アシスタントとの仲が時おり取り沙汰されたことはあったけれども、彼はこれまで独身で通していた。厳めしいが端正な顔だちであり、財産もあったし、片足で立ったまま屈伸を30回できるほどの強靱な体力の持ち主だと言われていた。ウィーンの森へ移ってまもなく彼は26歳になる、地元の領主の娘ゾフィー・リッターに求愛をはじめた。ゾフィーの父親はアイゼンハイムの職業を是認せず、またルエガー率いる、反ユダヤ主義を奉ずるキリスト教社会党の熱烈な支持者でもあった。ゾフィー本人はアイゼンハイムに恋していたと思われるが、最後になって事態は急変し、娘は唐突に身を引いて、1ヵ月後にグラーツ在住の穀物商人と結婚した。一年にわたって、アイゼンハイムは隠遁した郷土のよ



うにひっそり暮らしていた。

そして「悪魔の工場」と呼ばれるようなイリュージョンの秘密の建物を建てたアイゼンハイムは、そこでやがて幽霊を出現させるトリックを開発する。

この流れのなかのアイゼンハイムは、映画の主人公のように愛にひたむきになれるタイプではなく、むしろ愛が満たされないとわかるとすぐさま器械のなかに再び逃避し、安住できる場所を見つけようとするような、女性を苦手とするタイプとして描かれている。

この作品の最後は、アメリカ文学のスタートを印すワシントン・アーヴィングの短篇「スリーピー・ホローの伝説」の最後と似通ったところが多い。有る事情を抱えて意図的に姿を消す主人公は、一方が首無し幽霊に消されたことを装い、一方は自らが幽霊と化し、混乱をきたし、忘れ去ってしまいたいと思うような世界から忽然と姿を消してしまうのである。そして人々が口々に話す噂話の展開も酷似している。

もちろんそれ以外にも、短篇の伝統は生かされている。幽霊出現シーンにはポーの、人々が徐々にざわめきたつ手法が用いられ、警官の手がアイゼンハイムの体をすり抜けるシーンにはアンブローズ・ビアスの「アウル・クリーク橋の一事件」の有名な手法が利用されている。ともあれ、タイトルや時代設定、主人公の職業などはそのまま共通して応用されているが、[短篇小説と映画とは本質においては似ても似つかないものがテーマとして用いられている] ことに注目しなければならない。

さらに【映画】の場合には、このうえに〔俳優〕というものの存在が作品の成否を左右する要素として付け加えられることとなる。ちょうどこれは演劇において、戯曲は作者の意図のみが完全に表現されたものであるにもかかわらず、それが演じられたときには、役者の演技力や言葉以外からにじみ出る付加的な要素が添加され、違うものとなっているのと同じである。

この映画『幻影師アイゼンハイム』の成功の多くは優れた俳優人の活躍に依存している。アイゼンハイムのエドワード・ノートン(Edward Norton)やソフィ役のジェシカ・ビール(Jessica Biel)はいろいろな意見もあるが、それぞれが特別賞や女優賞を受賞し、その演技を認められた。脇役のポール・ジアマッティ(Paul Giamatti : ウール警部) や皇太子レオポルド役のルーファス・シーウェル(Rufus Sewell)らには存在感があり、その演技は迫力ある卓抜したもので、それらが作品の重厚さを増し、安心してみていられる要素を生み出している。また幼少時代のアイゼンハイムとソフィを演じたアーロン・ジョンソン(Aaron Johnson)とエレナー・トムリンソン(Eleanor

Tomlinson)は主演の俳優たちよりも新鮮で生き生きとし、役柄にぴったりとあった魅力的な演技をして、作品に愛らしさを加えている。そのほかの俳優陣もおしなべてすばらしく、映画のヒットというものが配役のよしあしに大いに依存していることを改めて認識させられる作品である。

このように、【原作】、【脚本】、そして【映画】、さらにそれらを生み出した【時代社会の背景】はすべて、それぞれが別個のオリジナルなものであり、それぞれをどのように扱い研究するかは自由であるが、研究を始める前にはそれぞれのジャンルの特質を知って、その適性を心得ておくべきである。たとえば研究対象がこれらの4要素を兼ね備えている場合は、そのうちどれをメインの対象とするかをまず決めなければいけない。文字を用いず耳と目を頼りに1, 2時間で完結する「映画」自体には、会話文以外ほとんど言葉はなく、詳細な言葉による描写や心理の動きを言葉で確認する方法が自分に適していると思ったならば、原作を中心に利用すべきであろう。また映画を直接研究するのであれば当然シナリオは手に入れるべきであろう。また実話に基づく映画のなかのモデルに関心がわいた場合は、映画をどのような形で、どのレベルまで使用するかも注意深く検討し、前もって利用方法を準備する必要がある。「わたしは映画で…を知り、調べていくと…ということがわかった」などという展開や、「映画では…という人物に描かれていたが、調べてみると…映画とは大きく違っていた」などという使用方法もある。もちろんこれらの要素すべてを応用しながら映画論を進めることも可能であるが、その場合、映画論で何を明らかにしていくのかをはっきりと前もって考えておくことが大切となる。実はこれがいちばん難しい点でもある。映画と原作の比較で浮かび上がる「メディア論」か、「映画の芸術的批評」か、はたまた「娯楽性の研究」か。自分が本当に進めたいのは映画論か小説論か文化論か実際の人物研究なのか、卒論などを希望する学生が申し出てきたときには、教師側として、引き受ける前に後のことを考えてかならず一度は確認しておきたい項目である。学生の側としては、その様な心構えを持ったうえで、論文のポイントがどこにあるのかを常に念頭におきながら、主張したい一点に向けて各論考を有効に積み重ねていく構成を、前もってしっかりと作っておくことがさらに大切となってくる。

# 最新アメリカ文学映画化状況

—1990年代以降の日本公開作品と原作—

中井 寛貴

近年アメリカ文学が映画化されることも多いが、最近の状況を一瞥できるものが少ないので、ここでは、映画から小説化される／ノベライゼーションも含めて、1990年代から現在までに至る大まかなリストを作成してみた。

① 制作年 (※2000年以降は日本公開年が基準) ② 題名  
③ 監督 ④ 原作者 ⑤ 原作名 ⑥ 上映時間

①1990年 ②The Hunt for Red October／レッド・オクトーバーを追え! ③ジョン・マクティアナン ④Tom Clancy／トム・克蘭シー ⑤The Hunt for Red October／レッド・オクトーバーを追え ⑥135分

①1990年 ②The Exorcist III／エクソシスト3 ③ウィリアム・ピーター・ブラッティ  
④ウィリアム・ピーター・ブラッティ ⑤The Exorcist／エクソシスト ⑥110分

①1990年 ②Desperate Hours／逃亡者 ③マイケル・チミノ ④ジョセフ・ヘイズ ⑤The Desperate Hours  
⑥105分

①1990年 ②Misery／ミザリー ③ロブ・ライナー ④スティーヴン・キング ⑤Misery／ミザリー ⑥108分

①1990年 ②The Grifters／グリフターズ 詐欺師たち ③スティーブン・フリーアーズ ④ジム・トンプソン  
⑤The Grifters／グリフターズ ⑥109分

①1990年 ②After Dark, My Sweet／アフター・ダーク ③ジェームズ・フォーリー ④ジム・トンプソン  
⑤After Dark, My Sweet／アフター・ダーク ⑥111分

①1990年 ②The Bonfire of the Vanities／虚栄のかがり火 ③ブライアン・デ・パルマ ④トム・ウルフ  
⑤The Bonfire of the Vanities／虚栄の篝火 ⑥125分

①1991年 ②White Fang/ホワイト・ファング ③ランダル・クレイザー ④ジャック・ロンドン ⑤White Fang  
/白牙 ⑥109分

①1991年 ②Cape Fear/ケープ・フィアー ③マーティン・スコセッシ ④ジョン・D・マクドナルド  
⑤Cape Fear/ケープ・フィアー 恐怖の岬 ⑥127分

①1991年 ②Doc Hollywood/ドク・ハリウッド ③マイケル・ケイトン・ジョーンズ ④ニール・シュルマン  
⑤What? Dead again?/ドク・ハリウッド ⑥104分

①1992年 ②The Last of the Mohicans/ラスト・オブ・モヒカン ③マイケル・マン ④ジェームズ・フェニ  
モア・クーパー ⑤The Last of the Mohicans/モヒカン族の最後 ⑥112分

①1992年 ②A River Runs Through It/リバー・ランズ・スルー・イット ③ロバート・レッドフォード  
④ノーマン・マクリーン ⑤A River Runs Through It/マクリーンの川 ⑥124分

①1992年 ②Patriot Games/パトリオット・ゲーム ③フィリップ・ノイス ④トム・克蘭シー  
⑤Patriot Games/愛国者のゲーム ⑥117分

①1992年 ②Pet Sematary Two/ペット・セメタリー2 ③メアリー・ランバート ④スティーヴン・キング  
⑤Pet Sematary /ペット・セメタリー ⑥101分

①1992年 ②Of Mice and Men/二十日鼠と人間 ③ゲイリー・シニーズ ④ジョン・スタインベック  
⑤Of Mice and Men/二十日鼠 (ハツカネヅミ) と人間 ⑥111分

①1993年 ②Jurassic Park/ジュラシック・パーク ③スティーブン・スピルバーグ ④マイケル・クライトン  
⑤Jurassic Park/ジュラシック・パーク ⑥127分

①1993年 ②Rising Sun/ライジング・サン ③フィリップ・カウフマン ④マイケル・クライトン  
⑤Rising Sun/ライジング・サン ⑥128分

①1993年 ②The Pelican Brief/ペリカン文書 ③アラン・J・パクラ ④ジョン・グリシャム ⑤The Pelican Brief/ペリカン文書 ⑥141分

①1993年 ②The Secret Garden/秘密の花園 ③アニエスカ・ホランド ④フランシス・ホジソン・バーネット ⑤The Secret Garden/秘密の花園 ⑥105分

①1993年 ②The Age of Innocence/エイジ・オブ・イノセンス 汚れなき情事 ③マーティン・スコセッシ ④イーディス・ウォートン ⑤The Age of Innocence/エイジ・オブ・イノセンス 汚れなき情事 ⑥138分

①1993年 ②The Joy Luck Club/ジョイ・ラック・クラブ ③ウェイン・ワン ④エイミー・タン ⑤The Joy Luck Club/ジョイ・ラック・クラブ ⑥138分

①1993年 ②The firm/ザ・ファーム 法律事務所 ③シドニー・ポラック ④ジョン・グリシャム ⑤The firm/法律事務所 ⑥155分

①1993年 ②Needful Things/ニードフル・シングス ③フレイザー・クラーク・ヘストン ④スティーヴン・キング ⑤Needful Things/ニードフル・シングス ⑥120分

①1993年 ②Ethan Frome/哀愁のメモワール ③ジョン・マッデン ④イーディス・ウォートン ⑤Ethan Frome/イーサン・フローム ⑥99分

①1994年 ②Little Women/若草物語 ③ジリアン・アームストロング ④ルイーザ・メイ・オルコット ⑤Little Women/若草物語 ⑥115分

①1994年 ②Clear And Present Danger/今そこにある危機 ③フィリップ・ノイス ④トム・克蘭シー ⑤Clear And Present Danger ⑥141分

①1994年 ②Disclosure/ディスクロージャー ③バリー・レヴィンソン ④マイケル・クライトン ⑤Disclosure/ディスクロージャー ⑥128分

①1994年 ②The Client/依頼人 ③ジョエル・シューマカー ④ジョン・グリシャム ⑤The Client/依頼人 ⑥121分

①1994年 ②Legend of the Fall/レジェンド・オブ・フォール 果てしなき想い ③エドワード・ズウィック  
④ジム・ハリソン ⑤Legend of the Fall/レジェンド・オブ・フォール 果てしなき想い ⑥132分

①1994年 ②The Getaway/ゲッタウェイ ③ロジャー・ドナルドソン ④ジム・トンプソン  
⑤The Getaway/ゲッタウェイ ⑥116分

①1995分 ②Smoke/スモーク ③ウェイン・ワン ④ポール・オースター  
⑤Auggie Wren's Christmas Story/オーギー・レーンのクリスマス・ストーリー ⑥65分

①1995年 ②A Little Princess/リトル・プリンセス ③アルフォンソ・キューロン ④フランシス・ホジソン・  
バーネット ⑤A Little Princess/小公女 ⑥97分

①1995年 ②The Grass Harp/グラス・ハーブ 草の豎琴 ③チャールズ・マッソー  
④トルーマン・カポーティ ⑤The Grass Harp/草の豎琴 ⑥103分

①1995年 ②Congo/コンゴ ③フランク・マーシャル ④マイケル・クライトン ⑤Congo/失われた黄金都市  
⑥109分

①1995年 ②Dolores Claiborne/黙秘 ③テイラー・ハックフォード ④スティーヴン・キング ⑤Dolores  
Claiborne/ドロレス・クレイボーン ⑥131分

①1995年 ②Get Shorty/ゲット・ショーティ ③バリー・ソネンフェルド ④エルモア・レナード ⑤Get Shorty  
/ゲット・ショーティ ⑥105分

①1995年 ②How to Make an American Quilt/キルトに綴る愛 ③ジョセリン・ムーアハウス ④ホイットニー・  
オットー ⑤How to Make an American Quilt/キルトに綴る愛 ⑥117分

①1995年 ②The Bridges of Madison County/マディソン郡の橋 ③クリント・イーストウッド ④ロバート・  
ジェームズ・ウォラー ⑤The Bridges of Madison County/マディソン郡の橋 ⑥135分

①1996年 ②THE CALL OF THE WILD/ザ・サバイバル (荒野の呼び声) ③ピーター・スヴァテク ④ジャック・ロンドン ⑤THE CALL OF THE WILD/荒野 (野生) の呼び声 ⑥91分

①1996年 ②Before and After/判決前夜 ③バーベット・シュローダー ④ロゼリン・ブラウン ⑤Before and After/判決前夜 ⑥107分

①1996年 ②The Portrait of a Lady/ある貴婦人の肖像 ③ジェーン・カンピオン ④ヘンリー・ジェームズ ⑤The Portrait of a Lady/ある貴婦人の肖像 ⑥145分

①1997年 ②The Rainmaker/レインメーカー ③フランシス・F・コッポラ ④ジョン・グリシャム ⑤The Rainmaker/レインメーカー ⑥135分

①1997年 ②The Wings of the Dove/鳩の翼 ③イアン・ソフトリー ④ヘンリー・ジェームズ ⑤The Wings of the Dove/鳩の翼 ⑥101分

①1997年 ②The Lost World: Jurassic Park/ロスト・ワールド ジュラシック・パーク ③スティーヴン・スピルバーグ ④マイケル・クライトン ⑤The Lost World/ロスト・ワールド ⑥129分

①1997年 ②L. A. Confidential/L. A. コンフィデンシャル ③カーティス・ハンソン ④ジェームズ・エルロイ ⑤L. A. Confidential/L. A. コンフィデンシャル ⑥138分

①1997年 ②Lorita/ロリータ ③エイドリアン・ライン ④ウラジミール・ナボコフ ⑤Lorita/ロリータ ⑥138分

①1998年 ②Lulu on the Bridge/ルル・オン・ザ・ブリッジ ③ポール・オースター ④ポール・オースター ⑤Lulu on the Bridge/ルル・オン・ザ・ブリッジ ⑥104分

①1998年 ②The Horse Whisperer/モンタナの風に抱かれて ③ロバート・レッドフォード ④Nicholas Evans/ニコラス・エヴァンス ⑤The Horse Whisperer/ホース・ウィスパラー ⑥167分

①1998年 ②Simon Birch/サイモン・バーチ ③マーク・スティーヴン・ジョンソン ④ジョン・アーヴィング  
⑤A Prayer for Owen Meany/オウエンのために祈りを ⑥113分

①1998年 ②Psycho/サイコ ③ガス・ヴァン・サント ④ロバート・ブロック ⑤Psycho/サイコ ⑥105分

①1998年 ②Sphere/スフィア ③バリー・レヴィンソン ④マイケル・クライトン ⑤Sphere/スフィア 球  
体 ⑥134分

①1998年 ②Apt Pupil/ゴールデンボーイ ③ブライアン・シンガー ④スティーヴン・キング ⑤Apt Pupil  
/ゴールデンボーイ ⑥112分

①1998年 ②Out of Sight/アウト・オブ・サイト ③スティーヴン・ソダーバーグ ④エルモア・レナード  
⑤Out of Sight/アウト・オブ・サイト ⑥123分

①1999年 ②The Green Mile/グリーンマイル ③フランク・ダラボン ④スティーブン・キング ⑤The Green  
Mile/グリーンマイル ⑥188分

①1999年 ②Fight Club/ファイト・クラブ ③デヴィッド・フィンチャー ④チャック・パラニューク ⑤Fight  
Club/ファイト・クラブ ⑥139分

①1999年 ②Girl, Interrupted/17歳のカルテ ③ジェームズ・マンゴールド ④スザンナ・ケイセン  
⑤Girl, Interrupted/思春期病棟の少女たち ⑥127分

①1999年 ②Sleepy Hollow/スリーピー・ホロウ ③ティム・バートン ④ワシントン・アーヴィング  
⑤The Legend of Sleepy Hollow/スリーピー・ホロウの伝説 ⑥106分

①1999年 ②Pola X/ポーラX ③レオス・カラックス ④ハーマン・メルヴィル ⑤Pierre; or, The Ambiguities  
/ピエール ⑥134分

①1999年 ②The Cider House Rules/サイダーハウス・ルール ③ラッセ・ハルストレム ④ジョン・アーヴィ  
ング ⑤The Cider House Rules/サイダーハウス・ルール ⑥126分



①2000年 ②The Golden Bowl/金色の嘘(黄金の盃) ③ジェイムズ・アイヴォリー ④ヘンリー・ジェームズ  
⑤The Golden Bowl/金色の嘘(黄金の盃) ⑥130分

①2001年 ②Hearts in Atlantis/アトランティスのころ ③スコット・ヒックス ④/スティーブン・キング  
⑤Hearts in Atlantis/アトランティスのころ ⑥101分

①2002年 ②THE TIME MACHINE/タイムマシン ③サイモン・ウェルズ ④H・G・ウェルズ ⑤THE TIME MACHINE  
/タイムマシン ⑥96分

①2002年 ②Mignority Report/マイノリティ・レポート ③スティーヴン・スピルバーグ ④フィリップ・K・  
ディック ⑤Mignority Report/マイノリティ・レポート ⑥145分

①2003年(日本未公開) ②Holes/穴 HOLES ③アンドリュー・デイヴィス ④ルイス・サッカー  
⑤Holes/穴 ⑥117分

①2003年 ②The Bourne Identity/ボーン・アイデンティティ ③ダグ・リーマン ④ロバート・ラドラム  
⑤The Bourne Identity/暗殺者 ⑥119分

①2004年 ②POLAR EXPRESS/ポーラー・エクスプレス ③ロバート・ゼメキス ④クリス・ヴァン・オールズバ  
ーグ ⑤POLAR EXPRESS/急行「北極号」 ⑥100分

①2004年 ②Timeline/タイムライン ③リチャード・ドナー ④マイケル・クライトン ⑤Timeline/タイム  
ライン ⑥116分

①2004年 ②Runaway Jury/ニューオーリンズ・トライアル ③ゲイリー・フレダー ④ジョン・グリシャム  
⑤The Runaway Jury/陪審評決 ⑥128分

①2005年 ②The Notebook／きみに読む物語 ③ニック・カサヴェテス ④ニコラス・スパークス  
⑤The Notebook／きみに読む物語 ⑥123分

①2005年 ②In Her Shoes／イン・ハー・シューズ ③カーティス・ハンソン ④ジェニファー・ウェイナー  
⑤In Her Shoes／イン・ハー・シューズ ⑥131分

①2005年 ②Oliver Twist／オリバー・ツイスト ③ロマン・ポランスキー ④チャールズ・ディケンズ  
⑤Oliver Twist／オリヴァー・ツイスト ⑥129分

①2006年 ②A SCANNER DARKLY／スキャナー・ダークリー ③リチャード・リンクレイター ④フィリップ・K・  
ディック ⑤A Scanner Darkly／暗闇のスキャナー ⑥100分

①2006年 ②A SOUND OF THUNDER／サウンド・オブ・サンダー ③ピーター・ハイアムズ ④レイ・ブラッドベ  
リ ⑤A Sound of Thunder／いかずちの音 ⑥102分

①2007年 ②Meet the Robinsons／ルイスと未来泥棒 ③スティーヴン・アンダーソン ④ウィリアム・ジョイ  
ス ⑤A Day with Wilbur Robinson ⑥95分

①2007年 ②I Am Legend／アイ・アム・レジェンド ③フランシス・ローレンス ④リチャード・マシスン  
⑤I Am Legend／吸血鬼（地球最後の男（人類SOS）／地球最後の男／アイ・アム・レジェンド） ⑥100分

①2007年 ②ROBBER BRIDE／寝盗る女 ③デヴィッド・エヴァンス ④マーガレット・アットウッド  
⑤The Robber Bride／寝盗る女 ⑥93分

①2008年 ②The Water Horse : Legend of the Deep／ウォーター・ホース ③ジェイ・ラッセル ④ディック・  
キング＝スミス ⑤The Water Horse／おふろのなかからモンスター ⑥112分

①2008年 ②Atonement／つぐない ③ジョー・ライト ④イアン・マキューアン ⑤Atonement／贖罪 ⑥123分

①2008年 ②There Will Be Blood/ゼア・ウィル・ビー・ブラッド ③ポール・トーマス・アンダーソン  
④アプトン・シンクレア ⑤Oil!/石油! ⑥158分

①2008年 ②The Illusionist/幻影師アイゼンハイム ③ニール・バーガー ④スティーヴン・ミルハウザー  
⑤The Illusionist/幻影師アイゼンハイム ⑥109分

①2008年 ②21/ラスベガスをぶつつぶせ ③ロバート・ルケティック ④ベン・メズリック ⑤Bringing Down  
the House/ラス・ヴェガスをブツつぶせ! ⑥122分

①2008年 ②Jumper/ジャンパー ③ダグ・リーマン ④スティーヴン・グールド ⑤Jumper/ジャンパー  
⑥88分

①2008年 ②No Country for Old Men/ノーカントリー ③ジョエル・コーエン イーサン・コーエン  
④コーマック・マッカーシー ⑤No Country for Old Men/血と暴力の国 ⑥122分

①2008年 ②Fast Food Nation/ファーストフード・ネイション ③リチャード・リンクレイター ④エリック・  
シュローサー ⑤Fast Food Nation: The Dark Side of the All-American Meal/ファーストフードが世界を食いつ  
くす ⑥108分

①2008年 ②Bridge to Terabithia/テラビシアにかける橋 ③ガボア・クスボ ④キャスリーン・パターソン  
⑤Bridge to Terabithia/テラビシアにかける橋 ⑥95分

#### 参考文献

八尋 春海 編著「映画で楽しむアメリカ文学」(2005 金星堂)

曾根田 憲三 著「アメリカ文学と映画 原作から映像へ」(1999 開文社出版)

# 实 践 篇

# ロミオとジュリエット

～400年語り継がれる恋愛物語から学ぶこと～

来嶋 夕依

① Yui KURUSHIMA ②Romeo+Juliet ③1997年 ④120分 ⑤love story  
⑥ レオナルド・ディカプリオ/クレア・デーンズ ⑦バズ・ラーマン  
⑧William Shakespeare ⑨悲劇の運命、禁断の恋、英文学作品 ⑩All things in our life are not only decided by our destiny, but also are the result of our social behaviors. We must not turn our eyes away from the responsibility of our social acts.

あらすじ：舞台はヴェローナ。この町には対立する2つの名家、モンタギュー家とキャピレット家が存在した。ある日、モンタギュー家の1人息子ロミオは、友達に誘われて宿敵の相手キャピレット家の舞踏会に忍び込んだ。そこで彼は、キャピレット家の1人娘ジュリエットに恋してしまう。許されない恋と知った2人は、密かに婚礼の儀式を執り行う。しかし何も知らない両家は争い、ロミオの親友マキューシオが、ジュリエットの従兄ティボルトに殺される。ロミオは、我を忘れマキューシオの仇を取るためにティボルトを殺してしまう。そしてロミオは、ヴェローナ追放の命を受ける。ロミオが追放されているうちに、ジュリエットに結婚の話が持ち上がる。ジュリエットは、仮死状態になる薬を飲み、死んだふりをして、ロミオの所に逃げる計画をたてた。しかし、その計画を知らないロミオは、ジュリエットの死を嘆き、ジュリエットの横たわる前で、毒薬を飲み命を絶つ。仮死状態から目覚めたジュリエットは、ロミオの死に直面し、後を追うようにロミオの銃で頭を打ち死に絶える。2人の死により結末を迎える悲恋物語である。

## I. 原作と映画の比較

シェイクスピアの作品の中には、英語特有の同音異義語を巧みに用いて、言葉遊びをしている場面が多く存在する。しかし大きく原作と異なった点が、この同音異義語の映画遊びが使われていないことである。これは、この映画が世界向けであるため、他の語で訳された時のことも考慮されているのだろう。他の言語で訳された英語のことば遊びは、ただの意味の通らない謎の会話になってしまう。また、物語の設定も少し違いが見られる。ロミオは映画の中でアロハシャツを着ているし、最後のジュリエットがロミオを追って死にゆく場面では、剣で死ぬ設定から銃で自殺という展開に変化している。これは、視聴者がより感情移入できるようにという狙いだろう。原作の対象は、劇を見に来てくれる英語圏の国内の観客である。しかし映画の対象は、全世界の現代の観客である。これが大きな違いである。また、運命に翻弄される1人、マキューシオの役に黒人を起用したところに、人種差別という大きな現代の問題に目を向ける傾向が大きくみられる。

原作と映画の大きな類似点は、登場人物の心的描写がキャラクターたちのセリフによって直接表わされているところである。原作の著者シェイクスピアは、劇作家のため原作も劇の脚本を日本語訳にした形になっている。そのため話の流れや、登場人物の気持ちは、全て登場人物たちのセリフより伝えられていく。この映画も、劇のように心の中で考えている内容が、登場人物の口以外から発せられることがない。ストレートに自分の気持ちをセリフに乗せる。そのため、こちらが恥ずかしくなるくらいの甘いセリフや、普段社会的に考えて口にしないような言葉を彼らは口にする。ただ、ストレートに気持ちを述べる彼らを見てみると、誰もがいろいろなしがらみにより胸奥に深く隠している気持ち、愛情、憎しみ、不安な部分に訴えかけられるものがあるだろう。今までの人生経験にもよるが、誰だって、何かしら共感できる部分、またすべてを犠牲にして自分の信念のため突き進む彼ら、自分の心を周りに揺るがされることなく貫き通す彼らに憧れる部分があるだろう。彼らの純粹で素直な心が、原作であれ映画であれ、この物語の魅力の1つである。時が経ってもなお同じセリフが使われ続けるのは、昔の人も現代の人も、内面の本質は変わっていないということだ。

## II. 物語の時間の流れと読み手の中の時間の流れの時差

この物語は、4日間という短い物語なのだが、あまりの内容の濃さに頭の中では何カ月も月日が流れているように感じる。それは現代の時代に、現実的にも経験しないようなことばかりであるため理解に時間がかかるのと、観客の常識的に恋に落ちたり、結婚などの時間をかけるべき行為を1日でやり遂げるといった驚異の話の早さについていけないというのがある。また、先ほど話したように、原作では、もともと英語で描かれる世界なので、英語特有の表現の同音異義語が多く使われる。例えば1番初めの使用人

の場面。「石炭 (coal) かつぎなんて仕事は真平だな。」「俺の言ってるのは癩 (cholar) にさわったら、剣を引っこ抜いてやる、ってことなんだ。」など、似ている発音を駆使してごろ合わせの洒落を使ったり、映画でも登場するクイーン・マブの夢妖精の話やコフテイアモのキューピッドの話などの神話の導入が入る度に頭の中で考え、一度物語の内容から離れるため、物語の時間が止められるというのもある。しかし、そこが味があっておもしろい部分であり、悲しい物語の中にも少しコミカルな要素を含む役割を果たしている大事な場面である。この物語の流れの時差が、観客をこの物語に惹きつける手助けをしているとうに思う。

### Ⅲ.この物語の「運命」という言葉の裏に隠される意味

ロミオのセリフ「星の周りを漂う宿命的な事件が、非業の死という無情な刑罰を科し、人生の命脈を断ち切るのではないか」やジュリエットのセリフ「ロミオ様の顔が、墓の横に横たわっている死人の顔に見えるのです」から今後の展開を匂わすようなセリフが多くでてくる。ここから、1つの大きな運命から逃れられない、運命に支配されているような彼らの姿が見受けられるが、私はこの物語を最後まで読んで感じたことは、この物語は本当に運命論の話なのかということだ。この物語の中では、運命を握る神の存在は、悪にも善にもとらえられている。何か悪いことがあれば、神の導き出す運命を呪い、神を罵るが、救って欲しければ神に再び祈りを捧げる。信じる者によって神の姿は変わる。つまり、最後に領主が「すべてのものに罰が下されたのだ」と言っているように、すべての行いには地上で生きる人間が関わっていて、1つ1つの行動はその行動を起こした人間に責任があるのだということ、つまり全ては神が定めた運命ではなく、関わった人間が引き起こしたもののだから、神を呪うのではなく、自分自身を見つめなおすのだということ、運命という言葉と反対に伝えたかったのではないかと思うのだ。どうしても人は責任から逃れたくて、他の者に頼りたくなるが、運命は自分たちで決めていくものだ。ジュリエットは、自分の血縁者が亡くなったことよりも、ロミオと一緒にいけない生活を嘆く。一般的には、考えられないことであっても、彼女には、それ以上に大事なことがあるだけのことで、ロミオは自分の命を落としたが、それは自分の死より大事なものがあっただけのこと。全部彼らは自分の意思で、純粋に自分の大事なものを守るために動いたのだ。彼らは本当に可哀想な人間だろうか。運命に支配されているのだろうか。

このロミオとジュリエットという物語は、ただ悲恋の恋愛ストーリーではなく、読む人の今までの経験で影響されると思うが、根本的に憧れる死よりも大切に出来る人間の純粋な愛と、他人よがりになる人間が向き合わなければいけない責任の重さを、社会的な地位や欲望にがんじがらめになって大事なことを忘れていた私たちに訴えている作品だ。この物語の「運命」という言葉には、逆の意味が込められているのだと思う。ロ

ミオとジュリエットが、自分たちの愛を神に誓わず、自分自身に誓ったように、純粹に何のしがらみも気にせず、愛のために自分の意思で生きる人間になりたいと思わずにはいられない。

“All things in our life are not only decided by our destiny, but also are the result of our social behaviors. We must not turn away our eyes from the responsibility of our social acts.”

It's up to you to obey or face with your destiny.

参考資料 『ロミオとジュリエット』 ウィリアム・シェイクスピア著 (岩波文庫)  
『ロミオ+ジュリエット』 DVD 20世紀FOX  
『ロミオ+ジュリエット』公式HP : <http://www.romeoandjuliet.com/>



# 『ショーシャンクの空に』

## —有限の生に向き合うために—

高 良児

①Ko Yang A

②The Shawshank Redemption

③1994 年

④143 分

⑤社会派、ヒューマンドラマ

⑥Tim Robbins、Morgan freeman

⑦Frank Darabont

⑧Stephen King : Rita Hayworth and Shawshank Redemption

⑨希望

⑩銀行の若き副頭取のアンディ・デュフレーンは殺人罪でショーシャンク刑務所に送られた。1ヶ月後、彼は囚人の1人である「調達屋」のレッドにロックハンマーを注文する。また、入所してからというものボグズらに性的暴行を受け、生傷が絶えないうでいたアンディだが、銀行員としてのキャリアを買われ、看守たちの資産運用や税金対策の書類作成をやらされるようになった。暴行、懲罰房への監禁、仲間の死。しかしアンディは19年間、「外」への「希望」を忘れることはなかった。

### 「生きる」を考える

『ショーシャンクの空に』のキーワードは「希望」だ。「希望」は勇気となり力となり人の命を輝かせる。無実の罪で刑に服したアンディはレッドに頼んだロックハンマーを手にしたその日から地道に穴を、外という無限の世界で生きるという希望を掘り続けた。アンディが性的暴行や拷問や仲間の死を乗り越えてこられたのは、彼が「希望」を持っていたからだと思う。そのおかげで彼は19年にも及ぶつらい「生」に耐え、自分を見失わずにいられた。「生きる」ということは「希望」をすてないこと、諦めないこと、明日を夢見ることなのだと思っ

本来、人は「希望」に満ち溢れた「生」を追い求める。しかしその「生」に何の希望も見出せないとき、生きることに意味を感じないとき、自ら命を絶つ

てしまう人もいる。図書係として何十年も刑務所で暮らしていたブルックスがそうだった。ある意味守られ、規制されてしまった生活に慣れてしまったブルックスにとって、仮釈放により放り出された外の世界は恐怖以外の何ものでもなかった。最終的に彼は支柱に「ブルックス ここにありき」と残して自殺してしまう。ブルックスは「生きる」ということは「生」だけでなく「死」とも向き合うことなのだと知っているかのようにだった。しかしそれは悲しいことだと思う。確かに、外の生活に順応できずにいるブルックスは何とも言えず淋しそうであらうで、思わず彼の死を肯定しそうなほどだった。しかしレッドは、ブルックスと同じ状況に追いやられたレッドは、生きた。アンディとの約束にこれからの人生の「希望」を見出すために生きたのだ。「希望」は生きる目的にも、そして手段にもなりうるのだ。今日にない「希望」を明日現れるのを夢見て生きる。それもまた1つの「生きる」だ。

そして私がとにもかくにも前提にしたいことは、1人に与えられた命は1つだけと自覚すること、自分のものだと自負することだ。それらをふまえ、「生きる」を考えるべきだと思う。

#### 光と闇の効果

『ショーシャンクの空に』では光と闇の世界が対照的に描かれていた。それは実際の視覚的な映像からではない。刑務所という場所そのものの「暗さ」があるからだろうか、灯りのある囚人たちの個室にも太陽のさす刑務所の敷地内の屋外にもなぜか暗い印象がつきまとっていた。光あふれる自由な世界にいたはずのブルックスも同じだ。その「暗さ」に彼らの言いようのない絶望や苦しさが滲みでているようであった。一方、「希望」を形にしたようなものが出てくると場面は明るく、暖かになった。日も沈むころ仕事終わりにビールを飲んだとき、「フィガロの結婚」のレコードが所内に流れたとき、看守たちがアンディに書類作成を頼むとき、アンディが盗人トミーに英語を教えているとき、所内の図書室の設備が充実し囚人たちが本を読みに集まっているとき。思わず穏やかな笑みがこぼれるのは、いつもそういうときだった。アンディが脱獄に成功したとき外は嵐の夜で真っ暗なのに明るくみえたアンディの姿やラストシーンでアンディとの約束だけを生きる「希望」としていたレッドが彼とメキシコ・ジワタネホの海岸で再会したときの空や海の青さは特に強調されていたと思う。彼らの未来は明るいということが容易に想像できた。このように希望が光で、絶望が闇というはっきりとした印象が与えられることで、ますます「生」が引き立てられていた。本来「生きる」ことは魅力的で期待せずにはいられない、そういった気持ちを前に向ける効果をよんでいると思う。

### アンディ・デュフレーンの魅力

アンディのルックス、聡明で育ちのよさそうな雰囲気、その「囚人」らしかぬようすがアンディの魅力の1つだろう。もう1つの魅力は、どんなに苦しいときもつらいときも自分を忘れない強さだと思う。それは目に見えるものではなく、彼の内にある静かな強さである。仲間がビールにありつけるようにしたり、勉強を見てやったりするという「人」としての当たり前の情を忘れることなく、また銀行員としての「アンディ・デュフレーン」を生かす場をしっかりとつくれたことで、ボグズらの性的暴行と闘い、懲罰房での監禁に耐える強さを彼は持てた。刑務所という人は廃れていくしかないような場所では、アンディのその強さは特に光っていた。囚人だけでなく、私たちもかれに魅了されるのは当然のことなのかもしれない。

### 「必死に生きる」

『ショーシャンクの空に』をみて改めて思ったのは、やはり「必死に生きる」ということだ。

最近大切な人を火事で亡くした。優しく何にでも頑張る人だった。彼が死んで多くの人が悲しんだ。しかし彼が死んでも世界は少しも変わることなく動き続けている。そういうのを目の当たりにして「生きる」ということは何て儚いのだろうと思い、誰も世界に参加できないという虚無感が私を襲った。しかし彼のために流された涙や彼が必死に守りぬこうとしたものは、確かに「ここ」にあり、「ここ」にしかないということも知った。悲しい、辛い、苦しい、痛い、「生きる」とはそういうこと。しかし楽しい、うれしい、綺麗、美しい、も「生きる」ということなのだ。「生きる」ことは尊いのだ。「生きる」ことそれ自体を誇りに思っているのだ。

奇跡ともいえるほどの可能性から生まれた「私」には、たった1つの命しかない。同じように生きるなら、必死に生きて「希望」を見つけたい、どんなに小さなことでもいいから「希望」をもって必死に生きたい。

『ショーシャンクの空に』には、「生きる」に背を押してくれるような何かがあった。

# 『マトリックス』

## ～機械と人間の未来を考えてみる～

村上 雄太

- ① Yuta MURAKAMI
- ② 英語名 THE MATRIX
- ③ 日本公開 1999年9月11日
- ④ 上映時間 136分
- ⑤ ジャンル アクション
- ⑥ 主演 キアヌ・リーブス ローレンス・フィッシュバーン
- ⑦ 監督 ウォシャウスキー兄弟
- ⑧ 作品を表すキーワード アクションの新しい時代へ
- ⑩ SHORT COMMENT I was enchanted by the action.

あらすじ：大手ソフトウェアの会社に勤めるトーマス・アンダーソン（キアヌ・リーブス）という主人公がいた。彼は、コンピュータ犯罪の天才クラッカー「ネオ」というもうひとつの顔を持っていた。彼は、ある人物を探していた。ある夜その人物からメッセージが届き、探していた人物に会うことになる。しかし、そこでネオに待っていたのは彼がトーマス・アンダーソンとして生活していた世界はコンピュータによって作られた仮想現実だということを知らされる。そして、本当の現実の世界では人間はコンピュータのエネルギーとして培養され、コンピュータにおびえながら暮らしているのが現実なのだということを知らされる。そして、ネオは機械との戦いに巻き込まれていくのである。

### I. アクション中心の立場から

「マトリックス」という映画のタイトルを口にすると誰もが想像するポーズがある。膝だけを曲げて、敵の銃による攻撃をよけるシーンだ（結局はあたってしまいが、ネオが人間を超えた存在として目覚めた瞬間のシーン）。この映画の中では、クイック&スローのように映像をゆっくりにしたたり、速くしたりすることで見るものにスピード感を与えている。このスピード感こそがこの映画

の最大の魅力だと言える。特に、銃のシーンや爆発するシーンなどは、スローモーションにすることで新鮮さを覚えるところである。また、ワイヤーやCGの技術を使うことで普通の人間ではできない動きを実現したり、CGで細かい部分（弾丸の空気の動き）などを表現することが可能となっている。このようなアクションの工夫が「マトリックス」を支えているのだ。

## II. ストーリー中心の立場から

「マトリックス」と聞くと誰もがアクションに目移りしてしまいがちだが、ストーリーもなかなか奥深いものがある。あらすじにも記載したが、我々が住む現実世界は実は未来のコンピュータによって作られた仮想現実なのである。現実の世界では人間はコンピュータに脅かされている。しかし、勇敢な人間がコンピュータから世界を救おうとする。しかし、普通の人間だけではどうもかなわないが、預言者というものが「救世主」は世界を救うという予言をし、それが「ネオ」ではないのか。「ネオ」は世界を救ってくれる。「ネオ」は本当に救世主であったのか、世界はどうなったのかというのが「マトリックス」の三編に続く話なのである。そのような、視点から見るとアクションを観るだけでは飽きてしまうが、なかなか奥深いストーリーとなっている。

## III. 私たちの未来と機械

ここからは、少しネタバレの要素が含まれるので、映画観た人だけ読んでほしい。

なぜ、マトリックスの現実世界は、コンピュータに支配されたのか。それは、ある日コンピュータが暴走し始め、人間と戦うようになったが、コンピュータは太陽の無限のエネルギーを使っているため、止まらない。危機を感じた人間はエネルギー不足にしまえばよいと  
考え、地球の空に太陽の光をさえぎる雲を作ったのだ。たしかに、一時的に人間の優位になったのだが、コンピュータは新たなエネルギーとして人間を培養することを考え出した。その、培養された人間が住む世界がマトリックスの仮想現実の世界なのである。つまり、コンピュータが発達しすぎたことにより、人間の世界は人工知能をもったコンピュータに支配されてしまったのである。もし、私たちの世界がマトリックスの映画の世界のように人工知能を開発し、逆に支配されないとは言い切れない。そう考えると人工知能を持つロボットの

開発なかなかの恐怖である。では、今すぐ人工知能の研究をやめさせるべきなのか。そうすれば、コンピュータが人間を脅かす可能性はなくなり、「マトリックス」のような世界は永久に訪れないと言い切ることができる。

はたして、ほんとうにすべての人工知能を持つ機械が人間に危険与えるのだろうか。

ここで、視点を変えて未来の人工知能をもつロボットで有名な「ドラえもん」について考えてみる。ドラえもんはのび太の世話をするために西暦2112年からきた、人工知能を持つ機械である。のび太に襲いかかるあらゆる困難を未来で購入した秘密道具と呼ばれるもので、救っていくのである。「ドラえもん」の中の未来の世界は、ロボットと人間の共存が描かれている。もし、「ドラえもん」の世界のように共存して暮らせるなら、人工知能を持つロボットは大歓迎である。

人工知能を持つロボットの作品としてもう一つの視点が考えられるなら、監督スティーブン・スピルバーグ 主演 ハーレイ・ジョエル・オスメントの「A.I.」がある。愛情を持ったロボットは子供を病気で失いそうになっている母親の家に代わりの息子として送られたのだが、子供は病気から奇跡的に回復し、そのロボットは捨てられてしまう。ここでは、上記の二作とは違い、人間がロボットより立場が上になっている作品である。

このように、私たちの未来に確実に関係してくるロボットとの関係は、多くの作品で取り上げられている。人間が支配したり、されたり。しかし、いま確実にわかっていることは人間とロボットが争うことなく共存できる世界を私たちは望むべきだということだ。たしかに、機械なしでは現代を生きていくのは不可能だ。だから、機械に頼りすぎることなく、人間の良いところ、機械の良いところを私たち人間が自覚していくことが、機械（ロボット）との間に明るい未来をもたらす第一歩だと私は思うのである。

# 『ブラス！』—音楽の力—

三井 愛

①Mana Mitsui ②Brass ③1997年 ④108分 ⑤Music story ⑥ピート・ポスルスウェイト タラ・フィッツジェラルド ⑦マーク・ハーマン ⑨炭坑の歴史、音楽が生み出す絆、不屈の努力 ⑩I felt music is a vital source in our lives.

あらすじ：炭鉱閉鎖の波に揺れるイギリス・ヨークシャーの炭坑町グリムリー。人々は生きる希望さえ失いかけていた。そこに、グローリアがやってくる。彼女は会社側の人間だが、労働者の味方だった。地元のブラスバンドでフリーゲルを吹くことになる。会社側と労働者側、闘いは結局会社側となる。しかし、ブラスバンドの全英大会の決勝に向け、散っていく人々の心は再び集まり…。

## I. 『ブラス！』との出会い

私は中学校から吹奏楽部に入り、ずっとユーフォニアムを吹き続けている。金管楽器なだけあり、ブラスバンドには興味がある。吹奏楽には木管楽器も加わっているが、ブラスバンドには木管楽器はいない。実はこのような違いがあるが、吹奏楽のことも今日では「ブラバン(=ブラスバンド)」というので、木管の友達によく文句を言っていた。

今回この映画に登場するブラスバンドは金管だけで構成された純粋なバンドである。私が中学3年生の時、この作品のビデオを両親が買ってきてくれた。これがこの作品との出会いになるが、当時は炭坑の話がいまいち分からずあまり興味が湧かなかった。しかし高2の時、再びこの作品に興味を持つようになる。修学旅行で北海道夕張市を訪れたからである。かつて炭坑の町として栄え、現在は破綻の街となった夕張市。私たちのために閉鎖されていた炭坑場を見せてくださった。私は見学しているとき、「そういえば『ブラス！』でも炭坑閉鎖で大変やってんなあ」とふと思い出した。そして炭坑の歴史などを勉強していく中でこの作品をもう一度見ることになる。

再び見た時は、中3の時の印象とは明らかに違っていた。音楽が人々を支える。理不尽な世の中で生きる人々に希望を与える。炭坑についてもよくわかる以上に音楽の底力をひしひしと感じた瞬間だった。この瞬間が私とこの作品との本当の出会いだったのかもしれない。

## II. 共感できる音楽だから

音楽は人の心を勇気づける。私は常々このことを思っているが、この作品はまさに私の考えを表したものである。私が中学の時、人間関係で悩み精神的にもまいっていた時期があった。そんな時支えになったのは、吹奏楽で吹いていたユーフォニアムにのめり込むことだったし、友人関係が回復したきっかけも音楽と一緒にしようというみんなの気持ちからだった。この話も音楽を通して人々が気持ちを立て直していく。背景こそは違うが、あの頃の自分にぴったりの話だと感じた。

正義感のため逆に敵だと疎外されるグローリアがブラスバンド仲間にもう一度認められる瞬間がまさに自分に重なる。また、単に音楽が素晴らしいのも好きになる点だ。ブラスバンドの定番曲がいくつも流れる。音楽の質にも共感できる。恋愛や仲間の大切さも提示され、まさに見応えがあるかえらこの作品は私の心を捉えた。

## III. くじけず前に進もう

この作品を皆さんに見ていただきたい。私はそう願う。なぜなら感動できるからだ。しかし本当は、この作品には感動以上のものが含まれていると思うのだ。これは一度見ただけでは味わえない。何度も見て皆さん自身で感じ取ってほしい。

歴史・音楽・友情・家族、どろどろの状況の中でも愛がいつも人々の胸にある。音楽があるから、みんながいるから、つらい時はこの作品を見て、勇気を出し前進しよう。



# 『ハンコック』が教えてくれたこと

山口 舞

①Mai YAMAGUCHI ②HANCOCK ③2008年 ④92分 ⑤アクション・ヒーロー⑥  
Will Smith Charlize Theron ⑦Peter Berg ⑧不明 ⑨Love Hero  
Friendship ⑩Between the hero and the disliked person is only a very fine  
line A man with too much power should be wise and have a warm heart.

## I. 「彼」が出る映画は間違いない

なぜ私がこの映画を観ようと思ったか。なぜこの映画を選んだのか。その理由はたった一つしかない。それは「彼」が出る映画は間違いないということだ。「彼」とは誰か…それは黒人ハリウッドスターとして今一番人気の「ウィル・スミス」である。

なぜ私が間違いないとそこまで断言できるのか…それは彼が今まで出演してきた映画をあげれば解っていただけるのではなからうか。「BAT BOY」シリーズや「I ROBOT」自らの子供との初共演を果たした「幸せのちから」、そして「I AM LEGEND」などである。出演映画をあげ出せばきりが無いが、ドキュメンタリーであったり、アクションであったり幅広いジャンルを通して出演している。出演映画が多だけでも、人気の高さは言うまでもないが、世界が認める賞に二度もノミネートされている。ノミネートされるだけでもすごい賞…もうお分かりであろうが、「アカデミー賞」である。

そして、彼のすごさは演技だけにとどまらず、10代からラップ・アーティストとして活躍し、89年、91年、98年には音楽界で最も栄誉ある賞である「グラミー賞」を受賞し、音楽でもその凄さを見せている。そして、近年では製作、指揮、脚本と多彩な才能に花を開かせている。

そんな彼が今回演じるのはヒーローである。普通のヒーローではないが…

## II. 「ヒーロー」になるための条件

### i) 友達の大切さ

「ヒーロー」ときけばみんなに好かれるスーパーマンだと思いがちである。だが今回の映画は違う…みんなに嫌み嫌われ「クズ野郎」とののしられる…そんな奴が今回の主人公ハンコックだ。一応人を助けには行くものの言葉づかいは最悪…やることも最低…彼がいるだけで街が尋常ではない被害を被ってしま

うというどうしようもない奴である。そして彼には友達がいなかった。

たまたま助けたレイと友達になったハンコックはレイのアドバイスに従い、みんなに好かれるヒーローとなる。友達ができるだけでここまで変われるのか…と驚くほどの変わりようではあるが、もしレイが人を疑ったり、嫌ったりできないような性格でなければ、きっとここまでハンコックを変えることはできなかったのではないだろうか。まさに「持つべきものは友」である。

## ii) ヒーローであるための悲しい運命

記憶喪失のために自分が誰であるのかわからず不安な日々を送っていたレイとレイの妻メアリーにあかすハンコック。記憶喪失した後も誰も名乗り出てくれなかったためわからなかったのだ。

レイの妻メアリーに次第にひかれていってしまうハンコック。そこで衝撃の事実につづかる。それはもともとハンコックとメアリーが夫婦だったということ。そして互いに異星人だということ…二人ひと組で作られているために、お互いが近くにすぎると互いのパワーがなくなり普通の人間になってしまうということだった。いつも一緒にいると弱みになって、ハンコックを傷つけてしまっていたことが重荷になっていたメアリーは、自分の存在をハンコックの記憶から消し、ハンコックを孤独に突き落した本人だったのだ。

ある事件がきっかけで、ハンコックはメアリーを救うため、離れ離れで生きていくことにする。人の命を守るために、愛する人を守るために…自分の一番そばにいてほしい人を自分からあえて引き離すことなどできるであろうか。そこまで強い意志をもって、正義感がないとヒーローにはなれない。ヒーローの悲しい一面を初めて垣間見た瞬間であった。

## III. 人間味あふれたヒーロー

ここまでヒーローの裏と表を見せる映画が今まであったであろうか。私の知る限り、答えはノーである。たいがいの映画は、もともとヒーローで敵をやっつけて終わってしまう。そんなものでは子供は楽しめても大人がみんな楽しめるかという難しい部分も多いだろう。

しかし、この映画ではハンコックの成長とともに場面が変化していくので、大人から子供まで楽しめる。アクションシーンのリアルさ、人間としての在り方、ヒーローだって大変だということ…いろんなことが感じ取れる。

大事なものをを守るためには、あえて遠くに大事なものを置いておかなければならないというヒーローの悲しい一面まで垣間見ることができる映画はこの「ハンコック」だけではないだろうか。

# 『プラダを着た悪魔』から考える働く女性

杉山 友視

①Tomomi SUGIYAMA②THE DEVIL WEARS PRADA ③2006年 ④110分 ⑤コメディ、ラブストーリー ⑥Anne Hathaway, Meryl Streep ⑦David Frankel ⑧ローレン・ワイズバーガー ⑨ファッション、雑誌、働く女性 ⑩It's difficult to take the work I desired. But it's more difficult to execute every kind of work perfectly.

あらすじ：ジャーナリストを目指しNYへやってきたアンディ。オシャレに興味のない彼女が「家賃稼ぎの仕事」として手に入れてしまったのは、何百人もが憧れる仕事だった。それは一流ファッション誌“RUNWAY”のカリスマ編集長ミランダ・プリーストリーのアシスタント。しかし華やかそうに見えるファッション業界の裏側は壮絶なものだった。ミランダから昼夜を問わずかかってくる電話のせいで携帯は鳴りっぱなし、横暴な命令の数々、その上「センス、ゼロ」と酷評され、アンディはこの世界が努力とやる気だけではどうにもならないことを知った。ミランダを見返すためにオシャレにも気を使うようになり見違えるように成長していくアンディだったが、職場で認められていくのと反対に恋人や友達との関係はギクシャクしてしまう。「私はこれからもこの職場で働いていいのだろうか」、「私がしたいのはこんな仕事じゃなかったはず」と思い悩むアンディ。私生活崩壊の代わりに昇進した時、彼女が取った行動とは。

## I. この作品との出会い

私がこの作品を初めて知ったのは何気なく見ていたテレビのCMからでした。まず「プラダを着た悪魔」という題名に興味を惹かれました。CMを通して内容を知っていくうちに「観たい!」と強く思うようになったのですが、なかなか時間がつくれず映画館で上映されている間に観に行くことはできませんでした。それからしばらくして近所の人がこの作品のDVDを買ったと聞き貸してもらい、その日のうちに家で観ました。もちろんずっと観たかった映画なのでとても満足しましたが、それ以上に内容がとても面白く女の子の心をわしづかみにするようなファッション、デザイン、主人公を誘惑するセクシーな男性。夢中になり何回も繰り返し観て、とうとう自分でDVDを買いました。この映画には様々な工夫やセンスがちりばめられており、女の子が大好きになるような映画だと思います。

## II. ファッション

タイトルに「プラダ」というブランド名が入っていることから分かるように、この作品はファッションがとても重要な役割を持っています。主人公の成長がファッションから読み取れるようになってきているのです。初めはファッションに疎く、センスゼロだったアンディがミランダに認めてもらうため雑誌のコーディネーターに服をコーディネートしてもらいます。最初は言われた服を着るだけでしたが、仕事を覚え昇進した頃になると自分で服を選べるまでになっていました。自分で選んだ服を「完璧」と言ってもらえるまでになっていたのです。つまりそれは仕事も完璧にこなせるようになったということでした。この過程を表すため、数々の有名ブランドがこの映画に全面協力しています。タイトルのプラダはもとより、シャネル、ドルチェ&ガッバーナ、ジョン ガリアーノ、エルメスなど、まばゆいばかりのブランドのアイテムをふんだんに使い、モードの最前線を心ゆくまで楽しませてくれます。パリコレの場面に、デザイナーのヴァレンティノ・ガラヴァーニや、スーパーモデルのハイディ・クラム、ブリジット・ホールが本人の役で出演しているほか、ジゼル・ブンチェンがランウェイの編集者役でカメオ出演するなど、実在のファッション・ピープルの遊び心溢れる登場ぶりも見逃せないポイントとなっています。

## III. 仕事

私がこの作品を通して学んだことは、望んだ職業に就くことは難しいが、望んでいない職業でも完璧にこなすことはより難しいということでした。アンディはジャーナリストを目指しNYに出てきたのに就職したのは全く興味のないファッション雑誌の会社。最初は文句や愚痴ばかり言っていたアンディでしたが、それではダメだと気づき仕事と真剣に向き合うようになりました。それでも最初は失敗もし、辞めようと思いましたが、最後にはミランダからの信頼を得ることができるようになりました。確かに自分が望んだ職に就けることが一番だと思います。しかし、自分が望んだ職場でなくとも一生懸命努力しベストを尽くせばきっとその仕事だって好きになるはずです。要は自分次第なのです。私はこの映画に出会い、努力の大切さを考え直すことができました。

# 「リトルマーメイド」の魅力

阿江 真由美

①Mayumi AE ②Little mermaid ③1989年 ④animation, love story ⑤ハンス・クリスチャン・アンデルセン ⑥”under the sea”は米アカデミー歌曲賞を受賞 ディズニー映画の作曲家アラン・メンケンがアカデミー作曲賞を受賞

あらすじ:地上に憧れる人魚のアリエルは、陸の世界に強い好奇心を抱いていた。ある日、好奇心を抑えられず海上の船をのぞきこみ、そこで見たエリック王子に一目ぼれをしてしまう。嵐がその船を襲い、溺れそうになっていた王子をアリエルは助け、介抱する。目が覚めた王子もまたアリエルの歌声に心をうばわれるのであった。アリエルは王子の前から姿を消すが、もう一度会いたいと思い魔女と3日間だけ歌声と引き換えに人間になれるよう契約をかわす。そして再び王子に会いに地上へと出ていくが・・・

## I. ストーリーの魅力

私がこの映画を初めて見たのは幼稚園児のころだったが、子供の私にでも理解できる単純な内容で、また大人でも楽しめるストーリー展開が魅力であると思う。主人公が人魚の女性だということで、同性の私は特に親しみやすかったのもあるだろう。またラブストーリーということで、誰もが憧れるような恋のお話であることが、世代を問わず人気を獲得している要因ではないだろうかと考えられる。他にも舞台が海の中、ということで様々な海の動物が登場しキャラクター構成が多彩であるため、とても興味をそそられる。中にはセバスチャンというキャラクターのコントのような、ギャグのような面白いシーンもあり笑いをそそられる。ラブストーリーという一面とは裏腹に、父親と考え方で対立するアリエルを周りで慰めるキャラクターや、最後には父親と仲直りしより良い関係を作っていくところには家族愛や、家族の大切さを知る一面も兼ね備えていると私は考える。

以上の点から考えても笑いあり、涙ありといった感動のストーリー展開であり、また最後はだれもが気持ちよく終わりを感ずることができる、ハッピーエンドがまちかまえていることがとても魅力的なのではないだろうか。

## II. 本編で登場する数々の音楽

本編ではキャラクターが気持ちを歌に歌うシーンが多数存在する。いわばミュージカル仕立てであり、ときには楽しい、ときには悲しい楽曲を登場人物た

ちが歌い上げる。セリフというかたちでこてこてするのではなく、親しみやすい音楽でテンポの良いストーリー展開をみせる。また歌詞も難しいものではなく、簡単で気持ちが伝わりやすいものとなっているのだ。私が本編で一番気に入っている楽曲は上記でも米アカデミー歌曲賞を受賞したと紹介した、“under the sea”である。登場人物のセバスチャンが陸の世界に憧れるアリエルの気持ちをそらすために、海の世界の素晴らしさを歌い上げた曲。とてもテンポがよく賑やかな曲で、歌詞で“under the sea”と“素晴らしい”の韻を踏んだリズム感も見ている人を虜にするものである。ストーリーだけでなく歌だけでも楽しめる映画になっていると思う。

### Ⅲ. 心に残るシーンとアリエルの生き方

心に残るシーンは様々にある。たとえば先ほど紹介した“under the sea”をセバスチャンと海の仲間たちが歌うシーンもそのひとつである。たくさんのキャラクターが一挙に登場し、テンポよく楽しく歌うこのシーンは非常に魅力的である。

しかし、ここで私が挙げたいと思うのは、アリエルが地上に対して強い憧れを歌うシーンである。曲名は“part of your world”。そのシーンとは以下のようなものである。彼女には沈没した船などから地上のもの（たとえばフォークやスプーンなど）を集めてコレクションしている洞窟があった。その洞窟で出会ったエリック王子のことや、地上に対しての憧れを素直に歌にしているシーンである。私はこのシーンが非常に印象的である。どれだけ地上に出ることを父親や仲間から反対されても、自分の地上へ憧れる気持ちを素直に人にぶつけることができたり、歌にして歌っていることが私個人としてもうらやましいと感じたからである。ダメだとどれだけきっぱりと反対されても、自分の意思を持ち続け、信じ続けようとする素直さに感動したのだ。

自分の気持ちを大切にしようとし、周りに流されないアリエルの素直で一途な生き方にとっても心を惹かれ、うらやましいと思った。アリエルのこの姿はストーリー全体を通して描かれており、声と引き換えにしてまでも足を手に入れることや何度も反対する父親や仲間を説得しようとするところは、まさにその生き方故なのではないだろうか。

# 『ラストサムライ』から学ぶ人間に必要なもの

山下 直子

①Naoko YAMASHITA ②The Last Samurai ③2003年 ④154分 ⑤歴史系 ⑥  
トム・クルーズ 渡辺謙 ⑦エドワード・ズウィック監督 ⑧ジョン・ローガ  
ン脚本 ⑨last、武士道、運命 ⑩When I watched this movie, I thought that  
we should have the belief and live honestly .

あらすじ：主人公のオールグレン大尉は、かつて南北戦争で国と名誉のやめに命をかけた英雄だった。そんな彼を日本政府が雇い、彼はサムライと戦うために日本にやってくる。明治維新後の日本は、押し寄せる近代化の波の中であった。サムライ一族の長である勝元は、サムライの時代の終わりを察知していたが戦わずに去るつもりはなかった。敵同士であったオールグレンと勝元の2人が出会い、互いにふれあううちにオールグレンは武士道にひかれ、変わってゆく。そして彼らはサムライの最後の戦いへ向かう。

## I. 『ラストサムライ』との出会い

私はもともと日本史が好きで、以前放送された幕末をあつかったドラマを見て自分の信念に従って生き、戦う姿に感動したのを覚えている。だから『ラストサムライ』も映画名から興味をもったし、映画の宣伝で主人公役のトム・クルーズが武士の姿をしているのを見て、何で外国人が武士になっているのだろう??とますます興味がわいた。また、渡辺謙演じる武士とトム・クルーズ演じる武士のどちらが“ラストサムライ”なんだろう??ということにも興味を持った。

## II. 相手を思う心の大切さ

この映画で最も印象的だったのは、まず、勝元の妹のたかとオールグレンの心の交流である。

たかの夫は戦いの中オールグレンに殺されてしまったが、たかは勝元の言いつけによって捕虜であるオールグレンの手当てをする。たかはオールグレンに対して嫌悪感を抱いていたが、武士道に魅かれてゆくオールグレンの心の変化とともに2人は心を通わせるようになる。愛する夫を殺されたにもかかわらず、懸命に世話をするたかの姿はひたむきで、切なくて美しいと思った。

また、次のシーンも心に残っている。政府に捕らわれた父、勝元を助けるために息子が重傷を負いながらも一人で敵を食い止めようとする。親子の最後の

別れがとても悲しい。自分が犠牲になってでも、一族にとって長である父の存在は欠かせない、何より父を救いたいという息子の思いを、勝元は苦しく悲しい思いをしながら受け止めたのではないだろうかと思うと、何ともいえない悔しさ・悲しさこみ上げてきた。

この映画のなかの彼らのように自分のことより誰かを思いやり、誰かのために必死になっている人の姿を見ていると、切なくも温かい気持ちになりとても感動した。

### III. LAST 2つの意味

last はもちろん終わりという意味である。幕府が倒れ、新政府が日本を動かすようになり、さらに廃刀令が出されたときにサムライの時代は完全に終わったと言えるだろう。映画でもサムライ勝元は官軍と最後の戦いをして敗れ、自分の信念に従い死ぬ。彼は武士道に忠実な“last”最後のサムライであった。

勝元は命をかけて信念を貫く。日本の近代化が進んでいても武士道に徹し、負け戦だと分かっているにもかかわらず敵に立ち向かう。そんな勝元を尊敬している他のサムライたちもまた彼に忠実であり、彼とともに戦う。

現代を生きている私たちはどうだろう。(本当に命をかけて何かを貫けと言うのではないが) 彼らのように強い信念をもち、相手に忠実であり誠実に生きているだろうか。便利で豊かな社会になった反面、私たち人間は、利己的に行動したり他人のことはひとごととしてしか考えたりしていないだろうか。この映画の監督と、主人公を演じたトム・クルーズの対談で、2人は現代社会に名誉・誠実・寛容が必要だと述べている。これらは武士道の一部である。つまり国や時代を問わず武士道は人間に必要なものであると思う。それは勝元らと共に戦い、一人だけ生き残ったオールグレンが象徴するように、武士道は絶やさず、受け継がれてゆくべきものだと思う。ここでlastの“続く”というもうひとつの意味もサムライから私たちへのメッセージとして受けとめ、大切にすべきだと思う。



## 『幸せのちから』から学んだこと

紀野 由加里

- ① Yukari KINO ② The PURSUIT of HAPPYNESS ③ 2006年 ④ 117分  
⑤ アメリカ映画 ⑥ ウィル・スミス Will Smith(1968-) ⑦ ガブリエ・ムッチーノ Gabriele Muccino(1967-) ⑧ クリス・ガードナー Chris Gardner(1954-) ⑨ 全財産 21 ドルから立ち上がった父子の、実話に基づいた感動作 ⑩ This movie told me how important it was not to give up.

あらすじ：81年、サンフランシスコ。5歳の息子クリストファーを何より大切に思うクリス・ガードナーは、新型医療機器を病院に売り込む日々。しかし大量に買い込んだ機器は滅多に売れず、家賃も払えない生活が続いていた。そんなある日、彼は高級車から降りてきた男に成功の秘訣を尋ねたことをきっかけに、証券会社の養成コースに通うことを決意する。受講者に選ばれるように、クリスは人事課長のトゥイッスルへ自己アピールするのだが…。

作品に登場するクリス・ガードナーは、シカゴなどに会社を構える実在の人物。しかし一時は住む家を失い、息子とともにホームレス生活をするほどの極貧にあえいでいた。この『幸せのちから』は、そんなクリス・ガードナーの足跡を基に描かれた真実のドラマ。とはいえ、単に成功を描いたアメリカン・ドリーム物語ではない。むしろ重きを置かれているのは、息子を思う父の愛情。息子を思うその思いこそが、成功への原動力となる。そんな父親をウィル・スミスが真摯な演技で表現。息子クリストファーを演じたウィル・スミスの実子、ジェイデン・スミスとの自然なやりとりが、作品にリアリティを与えている。

### I. 実子との共演

私はこの映画で主人公の息子役のジェイデン・スミスの、のびのびとした演技と可愛らしい笑顔に惹きつけられました。主人公クリス役のウィル・スミスの実子であり、ウィル・スミスも実子との共演はいい経験だったと話しています。ウィル・スミスはインタビューで、——たとえばカメラが回っている間に鼻水が出てきたときも、僕は心の中で「しまった！」と叫んでいた。でもジェイデンは、そんな僕の鼻をぬぐいながら、せりふを言い続けたんだ。それで僕は、そうだ、これが正しいんだと気づいたんだよ。人間にとって、そっちのほうが自然な行動じゃない？何度もリハーサルを重ねて完璧なシーンを作るのではなく、自然にその場を生きること。その大切さを僕はあらためて実感したんだ。と振り返っています。こんな経験、収穫は実の息子との共演だったからこそできたのだと思います。

## II. HAPPYNESS

この映画の原題“The PURSUIT of HAPPYNESS”の“HAPPYNESS”は、言うまでもなく“HAPPINESS”の綴り間違い。これが映画の中で重要な役割を果たしている。原作では、つまりクリス・ガードナーの実体験では、

こういうところに早く息子を預けられるようになりたいと思いながら、施設を見回すと、壁に“しやわせ”(HAPPYNESS)を提供すると掲げられている。わたしの頭に一瞬、疑問が浮かんだ。正しく“しあわせ”(HAPPINESS)と綴れない託児所が、はたしていい託児所と言えるだろうか。ほかに悩みはたくさんあるのだから、そんなことにまで悩んではいけない。それでも、まあ、息子には、“や”ではなく“あ”が正しい綴りであることをちゃんと教えておいたほうがいいだろう。

と書かれている。映画の中で、父と子ふたりでの暮らしが始まると、まずは託児所探し。けれど、この託児所は料金が高い上にトイレの訓練がすんでいないとあずかってもらえない。クリストファーはまだ1歳半で(映画では5歳という設定だが)、ひとりでトイレには行けなかった。そのときから、いつかこの託児所に入ることが、父と子のひとつの目標になった。“しやわせを求めて”The PURSUIT of HAPPYNESSということなのです。

## III. 強い思いを持ち続け、あきらめないこと

私はこの映画でクリス・ガードナーという人物の半生記をみて、強い思いを持ち続け、決してあきらめずに乗り越えようとする力の尊さを学び、今の生活が送れていることに感謝して、強い思いとともに何事にも一生懸命立ち向かいたいと思うことができました。